

明和町の縄文時代^{じょうもんじだい}

約1万5000年前に土器が作られるようになりました。そこから縄文時代が始まります。縄文時代は旧石器時代より温暖化が進みます。村を作り、定住するようになり、食べ物は木の実を採取したり魚、動物を捕まえるほか、作物を育てて食料にしていました。

明和町で最初に作られた土器は、約1万年前頃に作られた^{おしがたもん}押型文土器と呼ばれる土器です。この土器は彫刻した木の棒を土器表面に転がして、模様をつけたものです。縄文時代後期になると様々な模様がつけられるようになり、^{こんごうざか}金剛坂遺跡から見つかった^{かんじょうつぼがた}環状壺型土器は町指定の文化財になっています。

また縄文時代になり使われ始めたものに弓矢があります。弓矢が縄文時代に使われていたことは石器の矢じりが見つかることからわかります。

明和町では台地や段丘の上、^{さたいじょう}砂碓上などで縄文時代の遺跡が見つかっています。



明和町で見つかった石器の矢じり、環状壺型土器



明和町文化財解説シート
「明和町の縄文時代」



キーワード：縄文時代、定住、押型文土器、環状壺型土器